



【鎧三段飾り】

標準的な段飾り(一例)

*セットにより付属品は異なる場合がありますので、お店でご確認ください。

一段目

- 鎧 (よろい)
- 屏風 (びょうぶ)
- 櫃 (ひつ)
- 太刀 (たち)
- 弓 (ゆみ)
- 陣屋提灯 (じんやちょうちん)

二段目

- 軍扇 (ぐんせん)
- 太鼓 (たいこ)
- 陣笠 (じんがさ)

三段目

- 柏餅 (かしわもち)
- 八足台 (はっそくだい)
※または三方台
- 粽 (ちまき)
- 篝火 (かがりび)

鎧・兜の飾り方(1)

端午の節句飾りは、お祝いをする男の赤ちゃん自身を守るもので、一般的には長男の初節句には鎧を飾ることが多く、次男や三男は兜を飾る傾向にあります。飾りは一人ひとりのお守りですから、それのお子さんに用意するのがよいでしょう。

内飾りと外飾り

一般的には南向きか東向きに飾るのがよいとされていますが、端午の節句の飾りは、それ自身が災厄除けのシンボルであり赤ちゃんのお守りです。飾る場所や、鎧、兜の大きさなどを考えて飾って下さい。

飾るときの方向や場所

一般的には南向きか東向きに飾るのがよいとされていますが、端午の節句の飾りは、それ自身が災厄除けのシンボルであり赤ちゃんのお守りです。飾る場所や、鎧、兜の大きさなどを考えて飾って下さい。



【収納飾り】

仕舞う時は、下の箱の中にすべて納ります。



男の子の初節句・端午の節句飾り

鎧・兜の種類(一例)

※セットにより付属品は異なる場合がありますので、お店でご確認ください。



【兜平飾り】



【鎧平飾り】



【兜平飾り】



【着用鎧飾り】



【子供大将飾り】



【兜ケース飾り】



鎧・兜の飾り方(2)

鎧・兜の意匠が異なりましても、この飾り方と仕舞い方を基本にして下さい。
飾る時も仕舞う時も、手袋をするようにしましょう。

製品によっては、
竜頭や獅子頭等の前立てが
ないものもあります。



兜の飾り方



まえだて りょうず
前立てを(龍頭)前部中央の受け口に差し込みます。



ふくさ
袱紗をバランスよくかぶせます。
2枚の場合は少しづらしてかぶせます。



かぶとひつ
兜櫃を置きます。



ほくさ
袱紗の上に上手に乗せます。前後左右の傾きを調節して、形を整えます。



くわがた
鍔形を左右の受け口に差し込みます。
(この時、剣先が外側を向くように差し込んでください。また指紋をつけぬよう注意してください。)



しんぎ
ひつ
芯木を櫃の上に平行に立てます。

兜の仕舞い方



保護用の布または紙を四方から包み蓋をします。上部や空間には丸めたパッキンを入れるとよいでしょう。



保護のため、櫃に布または紙を敷き兜を仕舞います。



金属部品を包みます。吹き返し、眉庇を柔らかい薄紙等で包みます。金属面は直接手を触れないように注意してください。



付属品を包みます。鍔形は2枚が直接触れないように、柔らかな薄紙等で包みます。前立ても薄紙等に包んで箱に仕舞います。

ワンポイントアドバイス

仕舞う前に羽根はたきなどでホコリを丁寧に払い落してください。また飾り金具や鍔形など金属部分に指紋がついている場合は、乾いた柔らかい布で丁寧に拭き取ってください。櫃の汚れも同様です



男の子の初節句・端午の節句飾り

鎧の飾り方



めんぼう
面頬のひもの長さを調節し、芯木上部に(みぞ等)にかけます。
兜の眉庇と面頬が重なるくらいが美しく漸々くしく見えます。

面頬の紐の調節
●紐を長くする
●紐を短くする
結び目を押さえ、矢印の方向に軽く引きます。



よろいひつ
鎧櫃を置きます。



たて
はい盾の帯びの両端を、写真のように櫃と蓋の間にさしこみます。



兜の飾り方を参照して、兜を組み立てて下さい。



はい盾の帯びの中心を櫃の中心に合わせて、しっかり蓋をしてください。



兜を芯木に置き前後左右の傾きを調整してください。



しんぎ
芯木を櫃の上に立てます。前後はやや手前に立ててください。
芯木に通し、少し肘を張りぎみにして形を整えてください。脇が緩んで肘が伸びた状態では、美しく見えません。



すねあて
脛当てを、毛沓に差し込み、櫃の前面に並べます。

鎧の名称

まえた
前立て

くわ
鍔 形

くわがたたい
鍔形台(受け口)

かえ
吹き返し

めん
ぼう
面 頬

ま
眉 庇

そで
袖

しのび
忍 お 緒

どう
胴

てつ
手 こ 甲

はい
佩 盾

くさ
草 摺

すね
脰 宛

よろい
鎧 櫃

け
毛 沓

ワンポイント
アドバイス

飾る時には、箱から兜・鎧やお道具類を取り出す順に写真を撮っておくと後の片付けが大変楽になります。

鎧の仕舞い方



脣当てを兜の左側の開いた箇所に仕舞います。



胴を仕舞います。保護のため、櫃に布または紙を敷き、金属部分は柔らかい薄紙等で包み、芯木を付けたまま胴を上の写真のように仕舞います。



兜は、柔らかな薄紙に包み、佩盾は薄紙またはビニール袋に包みます。



付属品を包みます。鍔形、龍頭などの金属は、柔らかな薄紙等で包み、毛沓などは箱に入れ付属箱に仕舞います。付属箱は段ボールの箱の底に仕舞います。



最後に佩盾を上に置きます。

